サムシング エクサイティング

統計課・企画分析グループ
木　村　光　悦

タイトルを少々キザにキメてしまったので，本文もそのようにまとめなくてはならなくなった。そう，何事においても統一は重要なことである。

で，何を書くつもりかといえば，４輪駆動車による楽しみという実にたあいのない趣味の話である。

４駆車とは，通常の車が前または後２輪を駆動輪とするのに対し，４輪同時に駆動させることのできる車のことである。従ってイザという時には２倍のトラクション(牽引力)を得ることができる。

しかし，後だろうが前だろうが２輪を回してやれば充分走れると言うかもしれない。然り。ただしそれは普通の道を走る限りにおいては，である。ところが，車を単なる移動の道具以上のものとして使いたい，何か楽しみを見つけたいとした場合には，フツーの道をフツーに走ってみても始まらない訳です。何が始まらないかって？　もちろん興奮です。普通の道路を子供部屋のように飾りたてた車で暴走しても貧困な自己顕示でしかないし，また，高速道路を150km以上でとばしてみても少しもエクサイティングではない。生理学的現象としてはアドレナリンの分泌もなく，人生論的に言えばそこには希望がない。

そこで４駆の楽しみを見出せる場所といえば，砂浜や川の中といったオフロードがあり，オンロードでは未舗装のできるだけ荒々しい林道ということになる。なかでも林道は四季の変化があり，先行きの変化に対して希望が持てるフィールドである。

具体的には，富士山は広大な裾野をもち周辺には数多くの林道があって，地図を眺め想像力を働かせるだけでもう心臓が高なるほどである。

今年の夏，そのうちの滝沢林道を浅間神社わきから新５合目まで走ってみた。この林道は初心者向けの比較的おとなしい道ではあったが，ピッチングはかなりあったし，４合目あたりからは路面が荒れてきて，前後左右にもまれながらの快適なエンディングとなった。約1300ｍの標高差を登る間，数台のバイクに出会っただけで，ターボのタービン音の変化に耳を傾け，移り変わる景色と路面の変化に目を奪われていた。

富士山(滝沢林道)にて

今度はもっとハードなルートを攻めてみたいと思っている。

林道走行の大きな楽しみとして，紅葉の季節に一般の観光客の知らない最高の景色を味わえることがある。更に，運が良ければそこで野生の猿や鹿に出会えるだろう。いつでも彼等は動物園ではお目にかかれない美しい姿だ。ちょっと好奇心をみせることもある猿と，伸びやかな肢体を垣間見せるだけの純情な鹿。

最後に，もう一つの楽しみを紹介して終わることにしたい。山中深く分け入り空気も色づいて見えるほどの紅葉の下で持参のランチをひろげるとき，コ・ドライバーがいれば葡萄から作られるというもみじ色した飲みものを添えることができる。

これは何よりの，希望のある結末ではないだろうか。

【新着資料案内】【新着資料案内】

この資料は，昭和61年９月中に統計課に到着した主なものです。ご利用下さい。
資料室　本庁舎地下１階　TEL 0292-21-8111(内線2238・2239)

行政資料名	発行所（者）
中央省庁関係	
第36回日本統計年鑑	総務庁
社会・人口統計体系 図でみる市区町村のすがた 全国 茨城県	〃
昭和60年 家計調査年報	〃
昭和60年 貯蓄動向調査報告	〃
昭和60年 国勢調査報告 第２巻 第１次基本集計結果 その２ 都道府県・市区町村編 栃木県，山梨県，長野県，滋賀県，兵庫県，宮崎県	〃
昭和61年版 警察白書	警察庁
昭和61年版 防衛白書	防衛庁
昭和61年版 経済白書	経済企画庁
物価レポート'86	〃
国際科学技術博覧会 政府公式記録	科学技術庁
昭和61年版 管内経済統計年報	大蔵省
昭和59年 患者調査 上巻（全国編） 下巻（都道府県編）	厚生省
昭和60年 紙・パルプ工業設備調査報告書（昭和60年６月30日現在）	通商産業省
昭和60年 石油等消費動態統計年報（商鉱工業）	〃
昭和60年 砕石統計年報	〃
昭和60年 商業統計表 第３巻 産業編(市区町村表)	〃
第４巻 品目編	〃
道路統計年報１９８６	建設省
都市計画ハンドブック	〃
昭和60年 建築統計年報	〃
茨城県関係	
茨城県における情報公開制度のあり方（情報公開懇話会意見書）	茨城県情報公開懇話会
公文書開示事務の手引	総務課
昭和60年 茨城県の災害	消防防災課
茨城公論 第12号	茨城県企画政策研究会
昭和61年度 試験研究要望課題検討結果	流通園芸課
昭和60年度 茨城県蚕業試験場年報	蚕業試験場
茨城県蚕業試験場報告 第40号	〃
道路現況調書 昭和60年４月１日現在	道路維持課
昭和61年版 茨城教育便覧	教育庁企画室
県内市町村関係	
昭和60年版 年報	水戸市
住居表示新旧・旧新対照表 昭和61年９月１日施行	土浦市
昭和61年版 統計きたいばらき	北茨城市
内原町管内都市計画図 1/10,000	内原町
町制施行30周年記念誌 麻生 わがまち	麻生町
都道府県関係	
宮城県の商業（昭和60年商業統計調査結果報告書）	宮城県統計課
昭和60年 工業統計調査結果速報	秋田県情報統計課
昭和59年 工業統計調査結果報告書	福島県統計調査課
昭和60年 国勢調査の公表に基づく各月の人口及び世帯数（確定値）	栃木県統計課
昭和60年 群馬県鉱工業指数 昭和55年基準	群馬県統計課
群馬県移動人口調査結果の既公表分修正結果 昭和60年10月１日～昭和61年７月１日現在	〃
昭和60年 工業統計調査結果速報 昭和60年12月31日現在	〃
東京都世帯数の予測 昭和65年・70年・75年，各年10月１日現在	東京都統計調整課
神奈川県雇用マトリックス（生産活動部門別職業別雇用者内訳表）	神奈川県統計課
昭和60年 工業統計調査結果速報 昭和60年12月31日現在	山梨県統計調査課
昭和60年 長野県の人口と世帯	長野県情報統計課
昭和60年 静岡県の賃金と労働時間と雇用 ―毎月勤労統計調査地方調査年報―	静岡県統計課
昭和60年 工業統計調査結果速報について	〃
静岡県工業10年間の推移	〃
昭和60年 愛知の鉱工業動向（昭和55年基準）	愛知県統計課
昭和60年 工業統計調査結果速報	奈良県調査課
昭和60年 工業統計調査結果速報	広島県情報統計課
昭和59年度 広島県県民所得推計結果の概要	〃
昭和60年 香川県の賃金・労働時間及び雇用	香川県統計調査課
昭和60年 福岡県鉱工業指数	福岡県調査統計課
昭和60年 工業統計調査結果速報	大分県統計課
昭和60年 沖縄県鉱工業指数年報（昭和55年基準）	沖縄県統計課
公社・会社・団体等関係	
昭和61年版 業務統計年報	国民金融公庫調査部
昭和60年産 葉たばこ生産統計表(全国)	日本たばこ産業㈱原料本部
昭和60年度分 鉄鋼地域別用途別受注統計〔解説〕	鉄鋼統計委員会用途別統計委員会
統計表 ―別冊―	〃
地方自治関係雑誌文献索引（1986年版 その１）件名編	㈶特別区協議会資料室
茨城の商圏 第８回	㈶常陽産業開発センター
国際科学技術博覧会 会場計画・建設の記録	㈶国際科学技術博覧会協会
国際科学技術博覧会 会場施設図面集	〃
日立市の経済動向 No.10（昭和60年1月～12月）	日立商工会議所

経済動向

国内の動き

●景気の2極化進む

10月の月例経済報告によると，輸出が数量ベースでは減少傾向にあり設備投資も鈍化，鉱工業生産の落ち込みが大きくなってきた。製造業の景況は悪化，雇用も深刻化しており，全体として景気は後退している。

ただ一方で，個人消費は堅調，住宅建設が増加し始めており，円高の打撃を受ける部門，受けない部門の間で「景気の2面性がより明瞭になっている」と，報告は述べている。

輸出数量は9月に前年度同月比3.2%増と，前月までのマイナスからプラスに転じた。報告は，これは船舶，一般機械輸出の増加という一時的要因によるもので，基調は減少傾向と判断。輸入数量は9月が同21%増と大幅に増え，国内生産には減少要因となっている。設備投資は「日銀短観」でみた全産業61年度計画が3.4%増。先行指標の機械受注は8月が前年同月比7%減と，設備投資が鈍化から減少に向かうことを示している。

ただ，非製造業の設備投資は好調を続けている。

8月の完全失業率(季節調整値)は前月と同じ2.9%だったが，解雇者は増加しており，雇用情勢は悪化している。(日経 10月24日付)

●税収不足，1兆2千億円前後となる見通し

大蔵省は13日，今年度の一般会計税収が当初予算での見積りを1兆2千億円前後下回るとの見通しを明らかにした。今月末に編成する補正予算で減額修正するとともに歳出の節約や60年度剰余金で税収不足を穴埋めするが，最終的には赤字国債を大幅に増発せざるを得ない情勢である。税収不足になるのは，急激な円高で製造業を中心に企業収益が悪化，法人税が前年度実績を下回るとみられるため，所得税も夏のボーナスの不振が当初予算見積り(9.0%増)に及ばない。このほか石油税なども低調で，好調な相続税や有価証券取引税の増収分を差し引いても一般会計税収全体で1兆2千億円前後不足する。補正予算で減額修正したあとの今年度税収は39兆4千億円程度となる。

大蔵省は税収不足額を埋める一環として，地方交付税交付金を減らすよう自治省と折衝している。所得，法人，酒税の国税の32%を充てている地方交付金は税収の落ち込みで自動的に減るが，これを補てんするための財政支出をできるだけ抑え，一般会計の歳出増を減らすよう自治省と調整中だ。(日経 10月14日付)

●円高倒産再び増勢

民間信用調査機関の帝国データバンクが15日まとめた企業倒産状況による企業倒産件数は昨年10月以来の1年間の累計で，429件(東京商工リサーチ調べでは422件)に達した。これは前回の円高局面である52年7月から1年間の累計件数の約2.5倍。負債額は累計で4277億円にのぼっている。円高倒産は9月に入って再び増勢を強めており，これから資金需要が増える年末にかけて，一段と多発する恐れがある。

前回の円高局面は52年7月から54年10月まで2年4ヵ月続いた。この間に発生した円高倒産は487件，負債総額は2393億円。今回は1年で，負債総額はすでに前回を大幅に上回り，発生件数も前回に接近している。

今回の円高倒産の特徴としては，倒産が大型化していることである。(日経 10月16日付)

県内の動き

●県内市町村，60年度決算，歳入出とも伸び率，30年度以降最低に

茨城県は，60年度の市町村決算(普通会計)概況をまとめた。決算規模は，歳入が5636億4百万円(前年度比伸び率2.7%)，歳出が5383億6千6百万円(同2.4%)で，伸び率はともに30年度以降最低となった。

収支面では60年度の実質収支は全92市町村が引き続き黒字。前年度の実質収支を差し引いた単年度収支の赤字市町村は前年度の53から33に減少している。

歳入は地方交付税が3年ぶりに前年度比2.9%増えたものの，国庫支出金，地方債が減額された。歳出は普通建設事業の補助事業費が大幅に減るなど投資的経費の減少が目立つ。

単年度収支の赤字市町村が減ったのも，投資的経費を極力抑えたのが原因で，「財政の硬直化が一段と進行している」と県地方課は指摘している。(日経 10月24日付)

●茨城県内へ工場移転ラッシュ

最近，県外から工場を移転したのは59年上期が3社，下期が1社。60年は上期，下期とも4社。しかも主力工場がほとんど。半面「県内から県外へ撤退した工場はない」と県企業立地推進本部はいっている。

61年上期(1—6月)は8社が全面移転を決め，従来の倍のペース。

常磐自動車道利用による交通便の良さ，地価の安さ，良質の労働力などが主な理由で，東京湾沿岸，東京の下町などから移転してくる工場が多い。

東京近辺の立地環境は悪化する一方のため，県企業立地推進本部はこれからも工場の移転が続くとみている。(日経 10月18日付)